

会議の概要（議事録）

【横手体育館及び横手市民会館整備基本計画策定委員会】

会議の名称	第4回 策定委員会
開催日時	令和3年9月28日（火） 午後3時から午後5時まで
開催場所	横手市ふれあいセンターかまくら館5階 研修室1・2
出席者数	<p>【委員】… 出席12人（欠席なし） 本江 正茂（オンライン）、高橋 功、村岡 洋志、伊藤 英幸、荻田 ヒサ子、土谷 久男、柏谷 武志、菊池 康明、村上 智子、南野 稔（オンライン）、打川 敦、高橋 ゆかり</p> <p>【オブザーバー】… 2人 石川 亨（代理 北野 悟）、長瀬 肇</p> <p>【事務局】… 4人 経営企画課長 森田 博範、 経営改革係長 宮本 敦、副主幹 進藤 倫啓、主査 酒井 あずさ</p> <p>【関係課】… 10人 危機対策課危機対策係長 斎藤 栄作 財政課計画調整係長 田中 弓子、財政係長 黒澤 雄悦、主任 杉山 岳 財産経営課長 佐々木 賢祐 都市計画課長 山本 信夫 生涯学習課長 横井 朗、生涯学習係長 高田 寛久 スポーツ振興課長 加藤 貞純、スポーツ振興係長 大澤 覚</p> <p>【支援事業者】… 3人 株式会社山下設計 東北支社</p>
内 容	<p>(1) 施設に必要な機能と規模の想定について</p> <p>(2) その他</p>
配 付 資 料	<p>参考資料1 検討委員会による体育館の備えるべき機能の意見</p> <p>参考資料2 検討委員会による市民会館の備えるべき機能の意見</p> <p>参考資料3 新体育館・新文化会館に対する市民の意見</p> <p>資料1 体育館と文化会館の備えるべき機能の整理について</p> <p>資料2 既存体育館と文化会館利用実態について</p>

	<p>資料 3-1 体育館 競技別・大会レベル別 必要コート一覧</p> <p>資料 3-2 文化会館 席数による年間稼働率実態調査データ (対象施設から未承諾のため公開資料は一部加工)</p> <p>資料 4-1 体育館 機能上必要な諸室、規模想定 (案)</p> <p>資料 4-2 体育館 規模想定 (案) に基づくブロックプラン ※設計図面ではありません</p> <p>資料 4-3 参考図面 ※他施設情報の転載になるため非公表</p> <p>資料 4-4 文化会館 機能上必要な諸室、規模想定 (案)</p> <p>資料 4-5 文化会館 規模想定 (案) に基づくブロックプラン ※設計図面ではありません</p> <p>資料 4-6 参考図面 ※他施設情報の転載になるため非公表</p>
<p>会 議 概 要</p>	<p>※M：本江委員長、他は委員による意見 (Y：山下設計)</p> <p><体育館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプ椅子を平場に並べるなどした場合の最大収容人数については検討しているか。 <p>→基本的には固定席の人数で検討している。(Y)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bリーグ(ホームアリーナ)に必要な座席数の5000席は、コート3面のB案でも確保可能か。 <p>→中央にコート1面として、固定席と仮設席とすれば確保は可能。秋田市立体育館ではコート3面で、固定席2500席程度、仮設席などで合計5000席となっている。(Y)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の体育館のブロックプランでは、ABC案で同じようなレイアウトとなっているが、規模が大きくなればこの案のような一か所に集中した出入口では利用者が交錯してしまう。 <p>→あくまで規模感を検討するための資料なので、エントランスの配置計画や出入口などについて、仮に示したものとなっている。(Y)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの委員会で医務室や会議室についての意見があったが、それらについての反映はされていないのか。 <p>→比較するために、基本的な諸室をベースに案を検討している。医務室や会議室などの諸室については、今後規模の方針が決まっていくと同時に、詰めていくべき内容と考えている。(Y)</p>

<市民会館>

- ・リハーサル室が狭いのではないか。
→舞台のアクティングエリアとほぼ同じ面積(約 250 m²)を確保している。(Y)

- ・搬入の面積は十分確保しているか。また、ブロックプランにおいて搬入高さは想定した計画となっているか。
→搬入については 170 m²で検討しており、実績ベースの規模としては十分な面積を確保していると考えられる。(Y)

- ・実際には客席数と共用面積は比例関係ではないはず。浜松の事例は席数に対して共用部分がせまい。また鶴岡は広い。共用部分はそこだけで様々な活動が行われる場所となるので、横手ではどういった方針とするのかを検討する必要がある。浜松のようにコンパクトにまとめる方法もあれば、日常的に使えるようなゆとりのある計画も考えられる。(M)

- ・稼働率について、1200 席と規模の大きい湯沢文化会館が、他の(より規模の小さい)施設より稼働率が下がっていることが確認できる。規模と稼働率の検討をするうえで重要な資料と思う。

- ・市民ホールのブロックプラン案について、各階ごとの客席数は何席か。
→1 席当たりの面積を基準にして想定したプランのため、具体的な席数については算定していない。(Y)

- ・前回の委員会にて、石巻のホールで、2 階席をカーテンで仕切って使うという事例が挙げられたが、全体 1300 席(1 階: 800 2 階: 500)で、実際に利用した人の話によると、仕切って使っても元々 1 階席のみのホールのように使い勝手は良いとのことなので、1 階にまとまった席数を持つ計画も考えられるのではないかと。1 階だけで 800 席として使用、開催規模に応じて 2 階の座席も使用する案もあるのではないかと。
- ・リハーサル室を小ホールのように使えるような提案もあるのではないかと。(200 人くらい)
→リハーサル室に関しては、パイプ椅子のレイアウトであれば、220 席程度のレイアウトは可能。(Y)

- ・リハーサル室には美術バトンがあったほうが使い勝手がよい。

・搬入について、一時的なストック場所が必要かと思うが、確保可能か。また、リハーサル室を小ホールの的に使うことを想定するのであれば、そこに吊物についても検討していく必要がある。搬入の昇降設備についても今後、検討が必要。

→経験上の話となるが、一時的なストック場所の確保も 170 m²あれば確保はできると考えている。詳細は基本計画の段階では結論は難しい。(Y)

・ホール機能だけでない賑わいを生む、利用者の日常的な活動場所となるような施設を実現するにはどの面積を増やせばよいのか。

→創造活動部門・交流部門・管理共用部門が該当すると考える。(Y)

・大きなイベントでは 30 団体・400 名ほどの出演者が集まることになるが、共用部の利用なども含めると何人くらい的人数が収容可能か。音を出して練習ができる部屋に何人入ることができるのかという観点でも検討が必要と思う。

→どういった過ごし方をされるかということによって変わると考える。練習室以外でも防音対策をすることで対応可能な部屋を増やすことは考えられる。

(Y)

→このくらいのイベントでは、何人・何部屋程度の防音機能のある室が必要である、といったように、具体的な活動のイメージとともに想定されていけばよいと思う。(M)

<その他・共通>

・どの案も敷地に収まるのか。

→基本的には問題ないが、駐車場台数や外部空間の広さなどの関係もある。(Y)

→建設候補の敷地へ配置した場合の検討も必要。

・街並みとの兼ね合いなどの視点も必要になってくる。(M)

→駐車場の必要台数との兼ね合いは今後特に検討する必要があると考える。敷地にどう配置するのかという視点についても次回に提示したい。(Y)

・浜松市はファシリティマネジメントが進んでいる地域で、(施設機能も)コンパクトにまとめられている。各参考事例について、それぞれの計画の特徴と、その特徴のもたらすメリット・デメリットについて知りたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・由利本荘には体育館も文化会館も比較的新しいものがあり、文化会館が駅から近く、体育施設が郊外にある点は横手と似ているため、横手の参考モデルとなると思われる。由利本荘は体育館と文化会館の機能の棲み分けをどのようにしているのか知りたい。 →アリーナは防災施設事業の補助金を利用していることもあり、大規模なアリーナの建設が可能になったとの話である。(Y) ・【資料1】について：文化会館と体育館のグラフを重ね合わせることで、市民のニーズをどちらの施設でひろっていくべきかがわかる資料となるのではないか。 ・2018 実施のアンケートについて：市民アンケートの内容も、計画の中に取り込むことを検討すべき。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>所 管 課</p>	<p>総務企画部経営企画課（電話番号 35-2164）</p>